

コミュニティとマーケットプレイスを繋ぐ



「インフォマティカのおかげで、自社が持つ価値の高いオペレーショナルデータを、会社全体で活用できるようになりました。これにより、顧客離れやコスト高騰のリスク、戦略優位性を失うリスクなど、あらゆるリスクを抑えることができました」

ジェフ・マッキンタイヤ

BNSF鉄道 アシスタント・バイスプレジデント

北米中に食料や衣料、電力など必需品を提供するためのさまざまな物資を輸送

北米地域の貨物輸送を担う大手鉄道会社のBNSF鉄道(BNSF)は、米国28州とカナダの2つの州で鉄道路線を運営しています。バーリントン・ノーザン・サンタフェ社の子会社となった同社は、150年以上にわたって約390もの鉄道路線が買収や合併を繰り返し、今に至ります。北米最大の鉄道路線網の1つを持ち、貨物輸送を通じて米国経済に多大な貢献を果たしています。たとえば、同社が輸送する発電用石炭は、米国内で使用される石炭の10%に匹敵するほか、毎年カンサス州の面積に匹敵する農地分の農業用肥料を運搬し、住宅50万軒が建築できる木材を運んでいます。さらに、穀物輸送においても、全米で消費される穀物だけでなく、輸出分も港まで運んでおり、その量は年間950万人分のパンが供給できる量に相当します。

鉄道による貨物輸送には経済面や環境面で大きなメリットがあり、これが追い風となってBNSFのサービスに対する需要は高まっています。燃料価格の変動や幹線道路の渋滞、保険料率の上昇などトラック輸送がさまざまな問題を抱えていることも、長距離の鉄道貨物輸送の急増につながっています。こうしたニーズに対応するため、同社

では広大な鉄道網全体を通じた大規模なメンテナンスと拡大を行うプロジェクトを立ち上げました。レールの交換や鉄橋の架け替え、新たなテクノロジーの導入など、このプロジェクトを通じて数多くの改善が行われます。安全と効率化、サステナビリティに重点を置きながら、未来への投資をしています。

情報の持つ可能性を解放する

平均130両の貨物車がつながれた約230トンの重量の機関車の位置を把握することは、簡単のように思えます。しかし、同社のように6,400ものエンジンと、貨物車両85,000両を保有し、それを全長51,000kmにも及ぶルートのあらゆる箇所に分散させるとなると、極めて困難な作業になります。BNSFでは、何年も前から顧客が出荷や注文の追跡に利用できるWebベースのセルフサービス型の情報システムを提供してこの問題に対応してきました。しかし、ビジネスのスピードが高まるにつれて、顧客はリアルタイムに説明責任を期待するようになり、社内でも情報に基づいたタイムリーな意思決定を行うための正確なデータを必要としていました。同社の従来の環境では、ビジネス上の重要なデータは輸送アプリケーションに固定されていたため、顧客向けのシステムで使用するにはデータウェアハウスへ移す必要がありました。また、同社はトランザクション処理の大部分をアウト



概要

- 北米の最大鉄道会社のBNSFは、顧客にWebベースのセルフサービス情報を提供し、出荷状況の追跡や注文を行いたいと考えていました。輸送システムの情報を抽出するためのデータ統合プラットフォームを構築し、高性能なデータストアをほぼリアルタイムで作成します。

ビジネス・イニシアチブ

- 社内と社外の顧客の両方に正確なリアルタイムデータへのアクセスを提供
- 運用コストを削減し、オペレーションへの影響を低減
- 全社的なSAP導入への準備

テクノロジー戦略

- メインフレーム内のデータやオペレーションデータの異なるリポジトリを統合
- Webに対応し、セルフサービスで高パフォーマンスなデータストアへのアクセスを提供
- 直観的なGUIや開発環境を活用して生産性を最大化

ソリューションの内訳

- Informatica® PowerCenter® Advanced EditionにReal Time & Metadata Managerのオプション機能を追加
- Informatica PowerExchange®にDB2、OracleおよびVSAMのデータキャプチャのオプション機能を追加
- Informatica Address Verification(アドレス認証機能)

ソーシングしており、メインフレームのCPU使用は「進行中に支払う」ベースだったため、この2つのリポジトリ間の処理にはコストがかかりました。そのため、トップレベルの顧客サービスを提供できず、メインフレームの余分なサイクルがコストを押し上げていたのです。

BNSFはこれらの問題に対応するために、いくつかのプロジェクトに着手しました。同社は、顧客やカスタマーサービス担当者、ビジネスマネージャーがほぼリアルタイムに鉄道網全体の運行データにアクセスできる環境構築の構想を打ち出しました。そして、輸送システムからデータを抽出し、そのデータをほぼリアルタイムで高性能なデータストアに伝える拡張可能なプラットフォームを構築しました。これによってメインフレーム・システムにかかる負荷が軽減され、こうしたデータを必要とするすべてのアプリケーションを一元的に管理できるようになったのです。

結果

現在、BNSFの顧客は常時、オンラインで自社貨物の状況を15分以内に正確に把握できるようになっています。同社のアシスタント・バイスプレジデント、ジェフ・マッキンタイヤ氏は「新たな機能によって、お客様に必要なサービスを提供できるようになりました」と言います。顧客はBNSFのコールセンターに連絡するのではなく、同社が提供するオンラインのセルフサービス機能で自社の貨物を管理したいと考えています。デー

タをもとに、あらかじめ定義された何百ものレポートが利用でき、さらに顧客は、さまざまな検索パラメータを使用して独自のレポートをカスタマイズできます。Web対応の商品とサービスの追跡システムをサポートするだけでなく、トラフィックフロー分析やスケジュール管理など、他の多くの顧客向けアプリケーションや社内アプリケーションにも利用されています。結果、従来のメインフレームの負荷を軽減することで、運用コストを30%削減することができました。

インフォマティカの果たした役割

Informatica® PowerCenter® Advanced Editionは、エンタープライズデータの統合のための堅牢なプラットフォームを提供し、メタデータ分析やデータに対応したレポート機能を提供しています。

Informatica PowerExchange®の導入により、カスタムのデータアクセスプログラムを開発することなく、企業データの取得が容易にできるようになります。同社のテクニカルサービスディレクター、ビル・ハインリッヒ氏は、「インフォマティカは、輸送システムによって生成される膨大な量のデータを活用するための拡張可能なフレームワークを提供してくれました。

インフォマティカの多様なデータとデータ構造を扱う機能は、当社が新たに進めている全社規模のSAPの導入に備え、従来のメインフレームデータの同期化と移行にも活用されています。

BNSFのチームは複数の戦略的な理由からインフォマティカを選択:

- **中立性とオープン性**：シングルベンダーソリューションへのロックインは避けたい。インフォマティカのプラットフォームは膨大な数のアプリケーションやデータフォーマットにネイティブに対応
- **迅速なROI**：洗練されたインフォマティカの開発環境と直観的なGUIによって、ソリューションの導入や活用が容易に
- **安定性、拡張性、柔軟性**：BNSFでは長期にわたって優れた実績をあげ、鉄道会社の戦略的方向性のあらゆる変化に応じて拡大や調整が可能なソリューションを持つパートナーを求めている

BNSFではデータプラットフォーム委員会がデータガバナンスの監視を行います。同委員会は、データ資産の取扱いについての計画を慎重に評価することにより、リスクを軽減し、会社を成長させることを目的としています。あらゆる検証を行った結果、インフォマティカが最適な選択であるという判断に至りました。



インフォマティカ・ジャパン株式会社

〒105-6226 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階
電話:03-6403-7600(代表) FAX:03-3433-1031 <http://www.informatica.com/jp/>

© Copyright Informatica LLC 2019. Informatica, Informaticaロゴ, CLAIRE, AXON, Informatica Cloud, Big Data Management, PowerCenterは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。